



新学期は、・・・再登校につなげる大きなチャンス！

まずは「子どもが登校しやすくなる環境」づくりを！

新学期が近づいてきた 2~3月は、・・・

「4月からは、学校に行ってみようかな、行ってみたいな。」

と、新学期への希望や期待を膨らませている子どもたちが、たくさんいます。

いろいろなことが新しくなるので、希望や期待が膨らんできます。



しかし、例えば、新しいクラスの中に、

「この人と同じクラスになるのは、絶対にイヤ！」という同級生がいたら、

その時点で、再登校に大きなブレーキがかかってきます。

ですから、新学期が始まるまでに、新しいクラス編成なども含め、

「子どもが登校しやすくなる環境」を整えておくことが、大事になってきます。

#### ◆ 「子どもが登校しやすくなる環境」づくりのポイントは、・・・人間関係！

「子どもが登校しやすくなる環境」を整えることを、「環境調整」と言います。

この「環境調整」は、・・・

子どもの気持ちや考えに耳を傾けながら、保護者が中心になって進めていきます。

そのとき、最も着目すべきは、・・・学校生活における人間関係です。(注1)

不登校の児童生徒、保護者が、直接回答した調査結果において、

友だちや先生との関係が、不登校の要因と回答しているケースが少なくないからです。



例えば、「いじめ被害」が不登校の要因と回答した不登校児童生徒は

26.2%、保護者は 29.2% もあります。この結果をもとにすると、・・・

不登校児童生徒の 4 人に 1 人は、「いじめ被害」が不登校の要因ということになります。

また、「教職員への反抗・反発」が不登校の要因と回答した不登校児童生徒は 35.9%、

保護者は 44.7% もあります。

以上の結果からも、学校生活における人間関係の調整が、いかに重要かが分かります。

## ◆保護者は、・・・新学期の「クラス編成」に関わることができますか？

「でも、新学期の「**クラス編成**」に、保護者が関わることができるのでしょうか？」

・・・と思われる保護者さんが多くいらっしゃるかも知れませんが、・・・

**結論**、・・・保護者は、新学期の「**クラス編成**」に関わることができます。

「**クラス編成**」について、学校に働きかけてみようとお考えの保護者さん！

その流れとポイントを、以下の3ステップにまとめてみたので、参考にしてください。

### ★ステップ1 新しい「クラス編成」について、子どもの希望や要望を聞いてみる。

・「新しいクラスのことで、学校に、お願いしたいことは、ない？」

「一緒にクラスになりたい（なりたくない）友だちは、いる？」

「担任をしてほしい（してほしくない）先生は、ある？」など。



\*聞くときの**雰囲気**や**タイミング**が、とても大切です。

子どもの表情が良いとき、前向きな気持ちになっているときなどに聞くのが、better。

\*子どもの希望や要望は否定せず、全てを受け止めます。保護者の意見を述べたり批判したりすると、子どもは話さなくなるので、**注意**が必要です。

\*子どもの希望は1つとは限りません。複数聞けると、環境調整に、より役立ちます。

### ★ステップ2 子どもから聞いた希望や要望を、校長に伝える。

・「あなたの希望は、学校に伝えておいてもいい？」

\*伝える前には、必ず**子どもの了解**をとっておきます。親だけで勝手に動いてはいけません。

\*希望は、**校長に**、**直接**、伝えます。担任、主任、教頭では、いけません。

学校運営に関する全ての権限をもっているのは、・・・校長だからです。

\*新しい「**クラス編成**」についての希望や要望は、**2月中に**伝えておきます。（注2）

### ★ステップ3 「**クラス編成**」の希望を校長に伝えたことを、子どもに伝えておく。

\*校長が回答した内容があれば、・・・それも子どもに伝えておきます。

\*「**お父さんたちはここまで頑張ったのだから、4月からは学校に行ってね**」などと言ってはいけません。子どもの登校行動にブレーキがかかってしまうので、**注意**が必要！

\*「**学校に行ってほしい**」という雰囲気を漂わせるのもよくありません。親は、それを無意識のうちにやっていることがよくあるので、**要注意**です。

\*「**学校にいけると、イイね**」といった**共感的な話し方**は、・・・very goodです。

## ◆再登校にブレーキをかけてしまう、その他の要因も、環境調整を！

学校生活における人間関係以外にも、・・・

子どもの心を不安定にし、再登校にブレーキをかけてしまう要因があります。例えば・・・

### □学校を休んでいた間の「学習のおくれ」(重要)

- \*授業で分からぬことが重なってくると、不安や緊張が高まります。  
そのため、「学習のおくれ」に対する環境調整ができていないと、  
何日かは登校できても、数日後、学校に行けなくなることが起こります。



### □部活動の先輩や同級生、顧問の先生との「人間関係」(重要)

- \*部活動内の人間関係が不登校の要因になっているケースは、思っている以上に多いです。

### □家庭生活の「不安やストレス」(最重要)

- \*家庭生活の「不安やストレス」を感じていると、人の行動に、ブレーキがかかります。  
子どもが登校しようとする行動にもブレーキがかかってくるので、要注意です。(注3)
- \*家庭生活の「不安やストレス」として、・・・  
**親の感情や対応の不安定さ、親の価値観の押し付け、家族・親子の不和など**があります。  
これらは、子どもの健全な成長・発達へも影響しますので、**十分な配慮が必要です！**

上述したような、再登校にブレーキとなってしまう要因についても、  
**「子どもが登校しやすくなる環境」になるよう、一つ一つ、ていねいに整えていくことで、  
新学期からの安定した再登校へと・・・つながっていきます。**

**文責 西村明倫 不登校カウンセリング&セラピー「クローバー」代表**  
公益社団法人日本心理学会認定心理士、心理カウンセラー

### 主な参考文献等

注1 文科省委託事業「不撓呼応の要因分析に関する調査研究」報告書  
公益社団法人子どもの発達科学研究所 令和6年3月公表

注2 3月に入ると、各学校とも、新学期のクラス編成は、一斉に動き始めます。  
ですから、子どもの希望や要望は、2月末までに学校（校長）へ伝えておくことが大事です。

注3 「アタッチメント障害とその治療」 カール・ハインツ・ブリッシュ著 誠信書房 2008.5.30

### 「子どもが登校しやすくなる環境づくり」についての相談窓口（お知らせ）

\*ご希望の方は、「クローバー」へ、ご連絡ください。

メール counseling.clover@gmail.com

電話 090-8996-9883 (面談中は電話に出れません。後ほど返信します。)